

五月の終り、松江市黒田町に24時間営業のスーパー『マルイ』が鳴り物入りでオープンしました。一週間ほど前からカード会員の入会受付が始まり、特典の専用買い物カゴが品切れになるほどの開店前からの盛況ぶりだったのです。

オープン初日は混雑が予想されたとはいえ、月曜日にもかかわらず千人！近くの開店待ちの行列ができ、周辺道路は一時千メートル！近くの渋滞が発生し、入場制限？が行われたと聞き及びました。尋常なことではありません。

お店自体は近隣の『HOK』や『みしまや』と同じような食料品を扱うスーパーなのに、何故にここまで人が押し寄せたのか？下手の考えながらも思いついた理由が二つあります。ひとつめは、場所が地元民に人気のあつたショッピングセンター『キャスパル（旧アピア）』の跡地であつたこと、もうひとつは久しく松江市内に大型店のオープンが無かつたことではないかと推察します。

『アピア』は昭和五十六年にオープンした松江市初の複合商業施設でした。周辺の個人商店にとつては大打撃だったでしょうが、客からすればとりあえず何でも揃うショッピングセンターは便利この上ない施設でした。当時の人気歌番組『ザ・ベストテ

ン』の生中継会場として全国放送された伝説のお店でもあります。とはいえ松江サティ（イオン）の店と共に客足も鈍り、一時閉鎖の後『キャスパル』として復活しましたが三年前の春、惜しまれつつも閉店となつたのです。

おまけに松江市というところは、この手の大型店舗の建設に細かい規制があるようで、お隣の出雲市のように田園地帯の一角に突如巨大な商業施設が出現することなどありません。あまつさえ、例え出店計画が立ちあがつたとしても近隣住民の反対にあつて頓挫したという噂を耳にすることもあります。となれば元々あつた商業施設の跡地に新店を出すのが手っ取り早くて確実で、それがマルイのオープンと集客に繋がつたのではないかと。まあ考えるまでもない話ではありませんが。

余談ですが、実はこの跡地には当初超有名な某デイスカウントストアの出店計画があつただけで、近くの中学校の生徒の溜まり場になつたらまずいだろう！みたいな理由で反対されたとの出所不明の噂話がありました。事実、時を同じくして米子市の大型店の跡地に件の某デイスカウントストアがオープンしたことを考え合わせれば、あながちデマでもないような気がしないでもないのですが？

2024.6.17

1449号(夕焼け通信 創刊1993.4.23)

〒690-0823島根県松江市西川津町4276-B402 gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/ 編集 宮森健次

## 北海道への旅、三度目 木幡智恵美

10

JAFにお世話になるのはこれで三度目だ。一回目は正月に出雲の畑に向かう途中砂（畑のある場所は砂地）に車輪がはまつて車が動かなくなつた時、二度目は出雲まで畑の水やりに行く途中斐川の辺りでバイクのチェーンが切れて二進も三進もいかなかった時。いつものことながら、JAFの方の技術力と紳士ぶりには感心させられる。今回の方は、「遅くなつてすみません」と、まず断りを入れてから車を積み込んで固定された。私たちが乗る際は、「座席が高いのでお気を付けてください」と声を掛けられ、さらに、「着くまで大分かかりますので、お手洗いを済ませられた方がいいですよ」と、すぐそばの道の駅で停めてくださった。

そこからは高速に乗って一路西の方面へ。大栄町あたりだったか、我が車がされたように、ジャッキを付けて警察官が車を移動しているところに出くわした。十五分くらい待たされただろうか。早く帰りたいところだが、ほんの一時間ちよつと前、今乗せられている車と同じようにたくさんの車を待たせたことを思うと、文句は言えない。その車が少し広い場所に移され、車の流れが元に戻る頃には辺りは薄暗くなつていた。

夫は絶え間なく運転しているのはJAFの方に話しかけている。大体に車が好きな夫だからあれこれ聞きたくなるのは分かるが、運転の邪魔になるのではとはらはらする。それでも、JAFの方は丁寧な言葉づかいで面倒くさがらずに答えて下さっている。その間、娘や二男からメールや電話が度々入つた。食料を届けようとか、様子見に行くとか。何も心配ないと答える。新潟や茨城からは、シャインマスカットが届いたとの電話。義妹からも叔母からも、「しばらく家を空けるから、この携帯について書いてあつたけど」と同じことを聞かれ、「いや、旅行に行くはずが事故にあつて。でも、怪我はないから」と、同じように答えた。

ライトアップされたお菓子の寿城が見え、「帰って来たなつて感じだね」と、私が呟いた。夫を挟んだ向こうのJAFの方が、「私は鳥取なので、このあたりから西はあまり行きませんね」と言われる。すかさず夫が、「私がナビしますよ」と嬉しそうに言った。実際にはカーナビが付いているので、夫の余計な説明は全く必要なかったが。



**30代フリーター** ロシアのウクライナ侵略戦争は先の見えない膠着状態に陥っている。

**年金生活者** 約10年続いたベトナム戦争のように長引く可能性が高い。ふたつの戦争は大国の代理戦争という点で共通している。代理戦争は補給の相当部分を大国から受けるので、それだけ長く続けられる。

**東西冷戦下のベトナム戦争で、北ベトナムおよび南ベトナム解放民族戦線が代理していたのはソ連であり、南ベトナムはアメリカを代理していた。アメリカは代理されるだけにとどまらず、戦争に直接介入する当事国でもあった。**

ロシアのウクライナ侵略戦争もまた、東西冷戦に準ずる世界規模の戦争である米中の覇権争いの代理戦争としてとらえることができる。ウクライナが代理しているのはアメリカなど西側諸国だ。他方の当事国であるロシアはどこも代理していないように見えるが、広い意味で中国を代理している。少なくとも中国はロシアをそのように扱い、軍事的、経済的な

支援を続けている。

大国どうしは世界規模の無血の戦争を戦い、それを代理する国は局地的な流血の戦争を戦うという構図はベトナムもウクライナも同じだ。

**30代** 東西冷戦が冷戦構造とも呼ばれたように、米中の覇権争いも世界の構造として定着しつつある。

**年金** ロシアのウクライナ侵略はベトナム戦争以上に長くなる可能性すらある。ベトナム戦争でアメリカを敗退させた要因に相当するものがロシアには見当たらないからだ。

アメリカはベトナム戦争で解放戦線のゲリラ戦に苦しめられた。正規軍である米軍は、正規軍を相手に戦争をするようにしかつくられていないのに、非正規軍と戦うことを強いられたからだ。住民にまぎれ、ジャングルの木々の間から突然、銃撃してくる敵に米軍兵士は恐怖し、疲弊し、病んだ。そして、もうひとつアメリカを追い詰めたのが、国内および世界に広がった反戦運動だ。

これに対し、今のロシアがウクライナ

ない意味を持っている。

米中の覇権争いは、世界市場を主戦場とし、経済制裁の応酬をはじめとした貿易戦争などの形をとりながら展開されている。そのせめぎ合いを有利に運ぶための武器として台湾をめぐる威嚇の応酬が使われていると見る事ができる。それを別の面から見れば、台

で戦っている相手は正規軍であり、国内の反戦運動は強権によって抑え込まれていく。プーチンは戦争を長期にわたって継続できる見通しを持っているはずだ。

**30代** イスラエルとハマスの戦闘のほうはどうなんだ。

**年金** イスラエルもハマスもどこかの代理をしているつもりはないだろうが、無血の世界戦争を戦う米中がそれぞれを自らの代理として利用している。

しかし、この代理はロシアとウクライナの場合と違って、非対称な代理、いびつな代理となっている。代理戦争では代理する国が代理される国から補給を受けるのが標準状態だが、ハマスはイスラエルの圧倒的な軍事力に阻まれてどこからも補給を受けられないでいる。

一方、イスラエルは代理しているアメリカから大量の補給を受け、それを使って過剰な攻撃をガザ地区に加えている。それは大規模な人道危機を引き起こし、アメリカの思惑を超えた、いわば「代理のし過ぎ」の状態となっている。

湾は米中の無血の代理戦争の主戦場になつていと言いうことができる。

共産党との内戦に敗れた国民党が台湾に逃れて約75年になる。45年ほど続いた東西冷戦よりも長い時間が過ぎていく。その間、常に有事が懸念され、そのシミュレーションもされてきた。それだけ台湾情勢は関係国によつて管理されてきたとも言える。それは東西冷戦で核が両陣営によつて管理されてきたことと似ている。危険物が危険の大きさゆえに慎重に扱われ、かえって安全を保つ結果をもたらすという逆説がそこにある。

いつてみれば台湾は長いミニ冷戦の戦場であり、いきなり熱い戦争が始まったウクライナとはそこが違う。もしウクライナが台湾のように関係国、とりわけ西側諸国から慎重に扱われていたら、ロシアの侵略はなかったかもしれない。そう考えると、すでに始まっている無血の台湾有事が流血の台湾有事を代替し、それを阻む力となっているという見方が成り立つ。

**30代** 中国は武力による台湾統一を選ばず、アメリカは台湾有事のさいには「アメリカ軍の戦力の行使を排除しない」（バイデン）と表明している。

**年金** そうした脅し合いは、台湾に対する相手の介入を抑えようとする牽制であると同時に、それだけにとどまら

ニュース日記 926  
**中村 礼治**

## 代理戦争の過去と現在と未来